

医学系研究に関する情報の公開について

(3/-100)

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	Oncological Outcomes Following Laparoscopic Surgery for Pathological T4 Colon Cancer: A Propensity Score-Matched Analysis
所属科*	外科
研究責任者*	末田 聖倫
研究実施期間	開始 承認日 ~ 終了 西暦 2019 年 12 月 31 日
対象疾患（予定症例数）	StageI-III 大腸癌（755 例）
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2010 年 1 月 1 日 ~ 至 西暦 2017 年 12 月 31 日
研究概要*	<p>大腸癌は、世界的に罹患率の高い癌腫の 1 つであり、その約 15%は他臓器・腹膜および後腹膜に浸潤するような局所進行腫瘍である。</p> <p>近年、結腸癌に対する開腹手術と腹腔鏡手術を比較するランダム化試験が行われており、腹腔鏡手術の周術期における有効性と安全性が実証され、結腸癌に対する腹腔鏡手術が腫瘍学的に安全で有効であるという概念が確立されている。</p> <p>EAES コンセンサスおよび SAGES ガイドラインによると、腹壁またはその隣接構造への浸潤が疑われる場合、または腹腔鏡下による完全切除（R0）切除が不可能な場合は、開腹アプローチが推奨されている。過去の報告では、腹腔鏡下結腸切除術（LC）および開腹結腸切除術（OC）のランダム化比較試験が実施されているが、バルセロナ、ALCCas、COST、COLOR 試験、および MRC CLASSIC 試験では、局所進行腫瘍は登録対象から除外されており、T4 結腸癌の切除に関しては言及されていない。そのため、LC が局所進行結腸癌（T4）の患者にとって腫瘍学的に効果的かつ安全であるかどうかは依然として議論の余地がある。</p> <p>以上から、本研究は根治切除を施行した後、病理学的に T4 と診断された結腸癌患者を対象とし、腹腔鏡手術と開腹手術の長期予後を含む腫瘍学的アウトカムを比較検討することを目的とした。さらに本研究では、選択バイアスを最小限とするために、傾向スコアを用いた分析を採用した。</p>

別紙第2号様式

倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署（施設・研究室）で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院 外科 末田 聖倫 Email: suedas11@yahoo.co.jp

*記入必須項目